

雑詩（王維）

客故郷より来る

応に故郷の事を知るべし

来るの日綺窓の前

寒梅花を著けしや未だしや

客自故郷來 應知故郷事  
來日綺窓前 寒梅著花未

解説 故郷から来た客に、梅の花にことよせて妻の安否をたずねた詩。

語釈 ※綺窓Ⅱあや絹などで飾ってある窓。妻の部屋を意味する。

通釈 あなたはわたしの故郷からやって来られた。きつと故郷の様子を知っているに違いない。あなたが故郷を立ったそのとき、私の妻の飾り窓のそばの寒梅は、もう花をつけていましたか、それともまだでしたか。